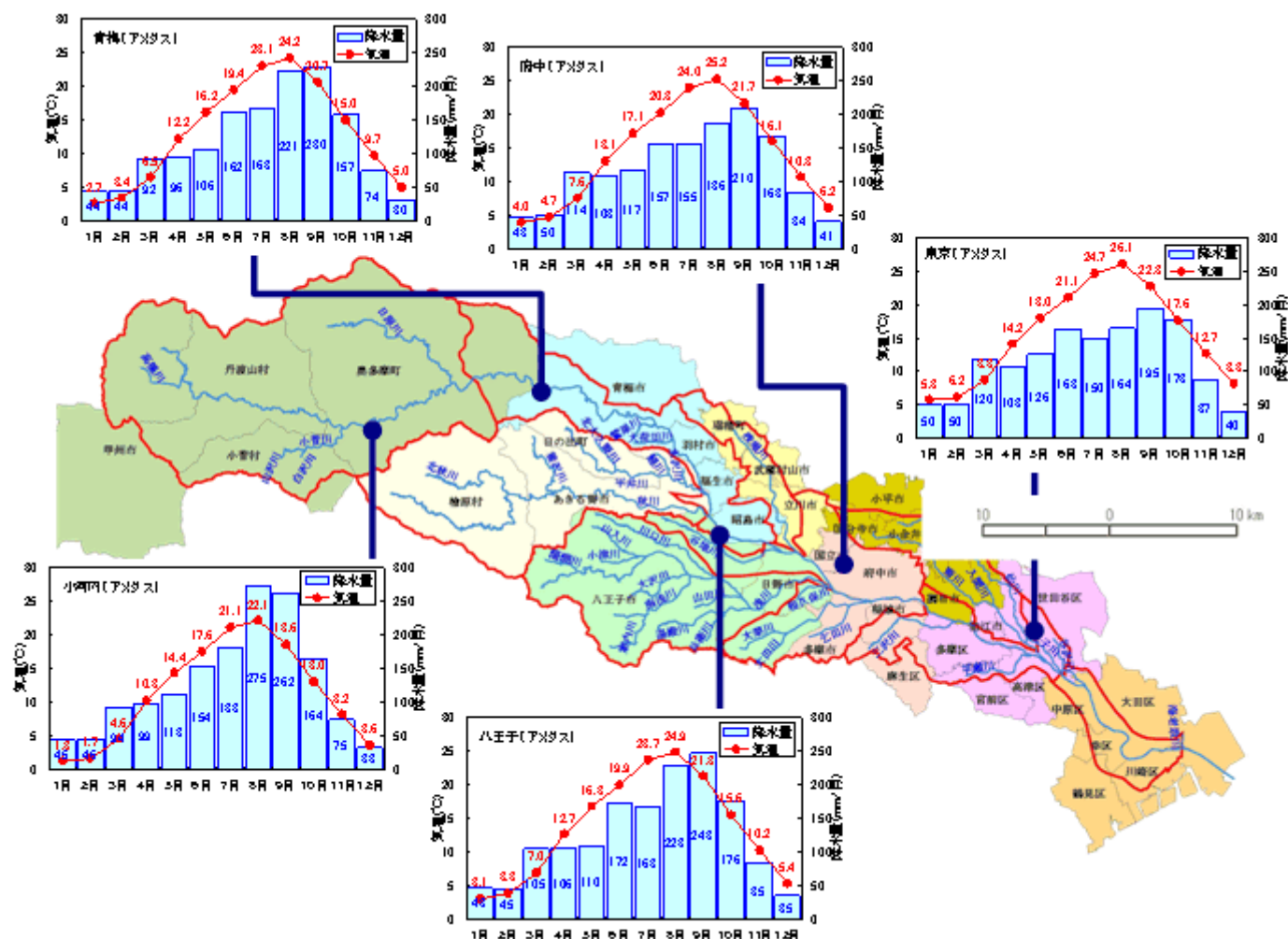


【資料】 流域の自然条件

気候

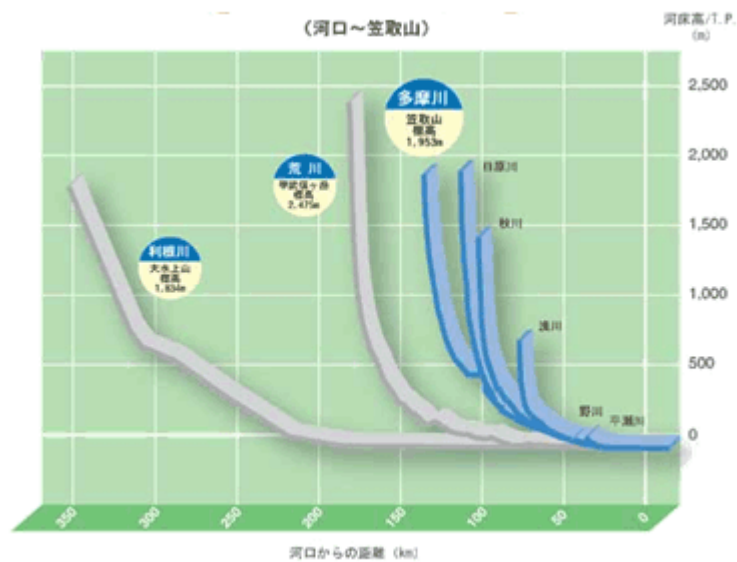
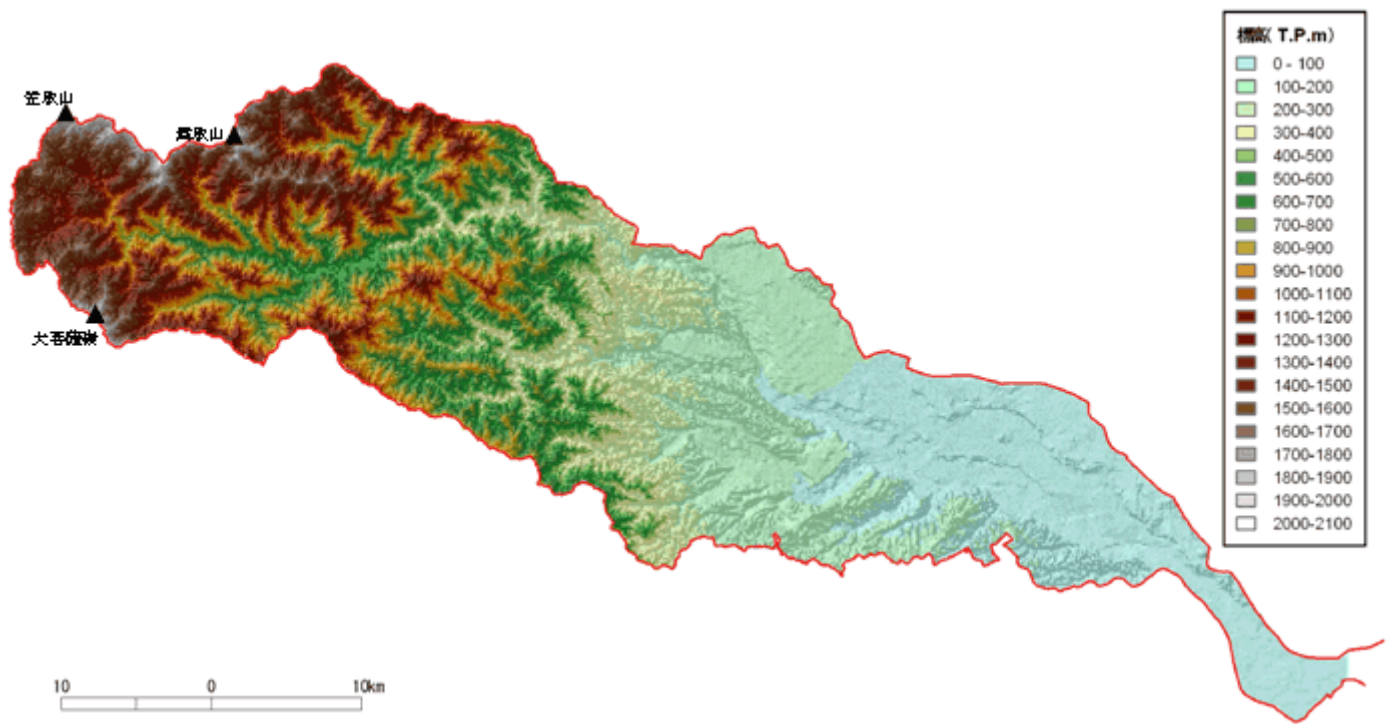
わが国の年平均降雨量は約1,800mmに達します。一方、多摩川流域内の観測所における観測年1983年から2004年の22年間の年間平均総降雨量は1,472mmと全国平均よりやや少ない値です。流域内の地点別ごとの気温分布は月による変動傾向は類似していますが、気温分布は西低東高型であり、下流の東京区部と山地部では年平均気温で約4度もの差があります。



地形

多摩川は関東山地南部に位置する雲取山(2,017m)、笠取山(1,953m)、大菩薩嶺(2,057m)など2,000m級の山々に囲まれた地域に端を発します。

中流部の青梅あたりまで(約64km)を平均1/27の勾配で山地を流下し、その後福生あたりまでを1/200、福生から溝口付近までを1/200～1/700の勾配で流下します。さらに新丸子までを約1/1,000で流れ、1/2,000～1/4,000の勾配で東京湾へと注いでいます。



地質

主に秩父系古生層・中生層泥岩・千枚岩・砂岩およびこれらの相互層、上流には花岡岩類が分布します。下流部にはローム層群、下総層群、上総層群が分布し、関東平野の特徴的な地質となっています。



小河内ダム流域

地質区分

- 沖積
- 口一ム層群
- 下総層群
- 上総層群
- 第三紀・中生層
- Klp 泥岩・千枚岩・砂岩・砂岩泥岩相互層
- gN 花崗岩類等
- N4m 砂岩・泥岩・凝灰岩・礫岩
- KPp 泥岩・千枚岩・砂岩・砂岩泥岩相互層
- Jo1 泥岩・千枚岩・砂岩・砂岩泥岩相互層

